答　辞

寒さも緩み、柔らかな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。

本日は、私たち卒業生のために、このように盛大な卒業式を挙行していただき、誠にありがとうございます。ご臨席を賜りましたご来賓の皆様、並びに西田学長をはじめ諸先生方に、卒業生一同、心より感謝申し上げます。

期待と不安を胸に入学したあの日から今日に至るまで、琉球大学で過ごした時間は、私たちにかけがえのない学びや経験、そして多くの素晴らしい出会いをもたらしてくれました。

琉球大学は総合大学として多様な学部を擁し、専門分野を超えた学びの機会に恵まれています。また、全国さらには世界から集まった学生たち、そして多くの先生方や職員の皆様との出会いを通じて、私たちは視野を広げ、新たな価値観を得ることができました。そのたびに、世の中にはまだまだ知らないことがあることを痛感し、学び続けることの大切さを実感したことでしょう。

この大学生活を通じて、私は二つのことに気がつきました。一つ目は、自分の考えを言葉にすることの難しさについてです。特に卒業論文を執筆する中で、論理的で誤解の生じないような文章を書くことの難しさを痛感しました。自分では正しく伝えているつもりでも、読み手によって異なる解釈が生まれることがあり、どのように表現すれば的確に伝わるのかを何度も考え直しました。この経験を通じて、言葉の選び方や文章の構成に加え、伝える相手への理解も重要であることを学びました。

二つ目は、私たちは日々、知らず知らずのうちに成長し、変化しているということです。新たな環境や様々な出会いの中で、自分の考えの幅が広がったことにより、以前は思いもしなかった視点を持てるようになりました。また、その過程でより積極的に人とコミュニケーションを取り、それを大切にしている自分に気がつきました。他者との対話を通じて得られる気づきや学びは、自分の成長に欠かせないものであり、その大切さを強く実感しています。

これから私たちはそれぞれの道を歩み始めます。本学で培った知識や経験を活かし、社会に貢献できるよう、挑戦を止めることなく、成長し続けていきたいと考えています。

本学において、充実した大学生活を送ることができたのは、ご指導くださった諸先生方、勉学に励む環境を整えてくださった大学職員の皆様のおかげです。また、ともに学び、支え合った友人たち、そしてこれまで見守り育ててくれた家族に、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

最後になりますが、皆様のさらなるご活躍と、琉球大学の一層の発展を心よりお祈りし、答辞とさせていただきます。

令和七年三月二十五日

卒業生代表

農学部亜熱帯地域農学科農林経済学コース

　　　　　　　松井 愛咲